

事業主体者

一般社団法人定山溪観光協会、定山溪温泉旅館組合

住所

北海道札幌市南区定山溪温泉東3丁目

電話

011-598-2012

URL

<https://jozankei.jp/>

事業概要

札幌の奥座敷・定山溪温泉は、入湯税ベースでみると道内一の集客を誇る温泉街である。年間宿泊者数は120万人、日帰り客数40万人と、一年を通して安定した集客がある。来訪者の約6割は道内からの来訪だが、インバウンド客もここ数年で急増しており、札幌から気軽に来られる温泉地として、非常に人気が高い。

宿泊客の満足度向上と、パブリシティ効果(マスコミの報道による宣伝効果)を狙って、シーズンごとに話題性のあるイベントを絶えず実施している。特に夏のロングランイベントとして実施している「定山溪ネイチャー・ルミナリエ」では、新しい映像技術を活用することで、従来のメイン宿泊客である50～60代に加え、それよりも若い世代の集客も狙っている。

定山溪の売りは自然。3年前までは活かしきれていなかった川や渓谷のある散策路を会場に、平成28年度の開湯150周年の記念事業として「定山溪ネイチャー・ルミナリエ」を開始し、平成30年度では第3回目の開催となる(平成30年度実施期間:6月1日～10月21日)。期間中は会場の散策路がプロジェクションマッ

ピングやイルミネーションにより彩られ、幻想的な世界を創り出す。

制作を担当したのは、プロジェクションマッピングを始めとした様々な技術や美術造作、演出を組み合わせ、光を使った空間の総合演出を手がけている株式会社ネイキッド。予算が限られている中、森の中が会場であることとセンスで勝負し、他の光のイベントとの差別化を図っている。定山溪ならではの自然を活かしたライティング方法などは毎度念入りに検討を重ね、毎年訪れるリピーターに飽きられないための工夫も凝らしている。

入場料は無料で、来訪者は230メートルほどの散策路を往復する。会場の点灯、消灯等も自動化されているため、事務局側の会場でのオペレーションはあまりなく、各温泉旅館の協力のもと、出入口にのみスタッフを2名配置している。前年度、機材の不具合で一部上映できない期間が発生したが、その反省を活かし、今年度は地元の事業者による定期点検を行い、円滑な運用ができた。

効果や課題

定山溪温泉には飲食店はそれほど多くなく、これまで夜に出歩く宿泊客はあまりいなかったが、本イベントを実施してからの夜の回誘客は劇的に増え、売上効果にもつながっている。イベント参加者へアンケートを実施したところ、このイベントのためにわざわざ足を運んでいる人もおり、集客にも多少効果があったと思わ

れる。

一方、運営スタッフの確保が課題である。入場料の導入も検討しているものの、金銭管理という課題が発生するため、まだまだ検討の必要がある。また、今後ドライブ客の集客を図りたいと考えているが、本イベント専用の駐車場がないのが課題である。

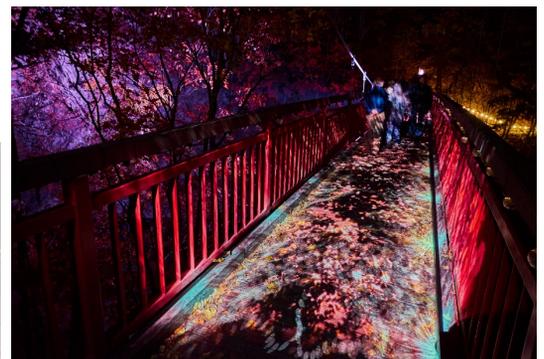
事業費

約1000万円(運営費の一部は札幌市の補助金を活用)



石畳の通路や木立がライトアップされ、昼間とはまた違った雰囲気に。

◀ ルミナリエ会場となる二見公園散策路の入口。



▲ 紅葉の名所として知られる二見吊橋。プロジェクションマッピングに彩られる橋とそこから見える渓谷が見どころ。

